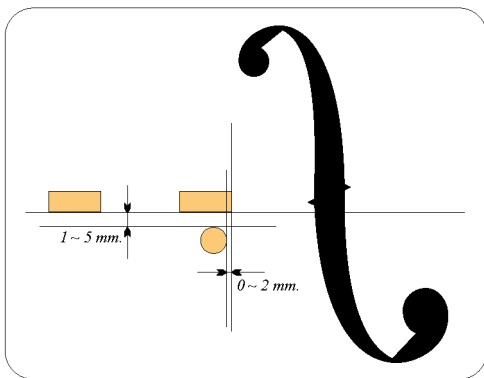


# 弦楽器の基礎知識

## 2) 魂柱

あなたは、ご自分の楽器の鳴りに十分満足されていますか？E線が鳴らないとか、G線が鳴らないとか、G線の音が弱いとか、音色が固すぎるとか・・・もちろん楽器自体の性質によってそれぞれ本来の音色はちがうのですが、駒や魂柱を調整することによって、驚くほど改善されることがしばしばあるのです。そこで、今回は、「魂柱」のお話をしましょう。

魂柱は駒の向かって右足の下に立っていて、右側のf孔からのぞけば見える直径約6mm（ヴァイオリンの場合）の丸い棒です。立っている位置をわずか1mmでもずらすと、楽器の音がずいぶん変わります。魂柱は表板と裏板の圧力だけで立っていて、簡単にずらすことのできる物なのです。あなたの楽器の魂柱の位置はあなた自身の手によって確かめることができます。簡単な方法を書きますと、名刺の厚さくらいの紙切れをf孔から下の図のように魂柱にコツンと当たるまでそっと入れてみて下さい。駒の足からの距離を木目に直角方向と平行方向に計るわけですが、



左の図は駒の足と魂柱の位置関係です。図の通り駒と魂柱の間はヴァイオリンの場合約1～5mm（チェロの場合約5～12mm）、駒と魂柱の右側が縦に揃っている状態（チェロの場合約5mm左側）が標準的な位置です。（人によって多少見解が異なります）

また、魂柱自体の長さを変えずに、魂柱をずらした際、楽器がその魂柱の位置になれるまで日数がかかったりします。魂柱の位置を決めるに当たっては楽器の性格を考慮した上で考える必要があるのが一概には言えません。それに楽器の性質も年月とともに少しずつ変わっていきます。ですから理想的な魂柱の位置も変化していくものと考えられます。職人の立場としては、演奏家の皆さんに満足のいく調整をするためには、長年の経験によって鍛えられた耳と、センスが必要な仕事のうちの一つでしょう。

楽器の調整をしていると、時々、魂柱の位置があまりにも悪かったり、表板と裏板にぴったりと合ってなかったり、軸が回ってずれていたたり、ひどいときには魂柱の木目の方向を間違えて立ててあったりします。そのような魂柱であれば楽器が正常に鳴らないのも当然といえるでしょう。場合によってはきちんと作られていない魂柱を使ったために、表板の裏側が傷ついている楽器を見ることも希ではないのです。

魂柱を動かすのはやはり信頼のできる職人に任せの方がよいでしょうが、ご自分の楽器を一度チェックなさってみてはいかがでしょうか。魂柱の大切な条件は、位置、長さ、太さ、それに表・裏板との接触面がピッタリあっていることです。

前回にも述べた通り、魂柱の位置によって音が変わりますが、魂柱の長さや太さによっても音は変化します。一般的に、魂柱を駒に近づけると音が大きく硬くはっきりしてきます。逆に遠ざけると柔らかくなりますが音が弱くなり、遠くに響きにくくなります。また、恐ろしく単純に言えば、魂柱をf孔の方にもってくと高音が良く鳴り、中央に近づけると低音が良く鳴ります。この横方向の移動についてはいろんな条件が複雑に関係し、本当は一概には言えないのですが、また、魂柱を長くすると高音が良く鳴るようになりますが音が堅くなります。

魂柱を動かすときに、一つの条件を変えるとほかの条件も変わってくるので、同時にたくさんのことを考慮しなければなりません。また例外も多いのです。と言ったわけで、魂柱を調整するのは、駒や楽器自体の作りを考慮に入れながら、経験とセンスをもって行われなければなりません。楽器も年月によって鳴り方が変わってきますし、演奏家が楽器に対して持つ要求も演奏が上達すると共に変わったりするでしょう。ヴァイオリニストとしての経験を生かしながら楽器を調整していますので、お気軽にご相談下さい。